



寮 美千子 講演

詩が開いた心の扉

空が青いから白をえらんだのです

奈良少年刑務所詩集

寮 美千子 & 船後 靖彦 講演会

主催 / 株式会社アース

協賛 / デイサービスセンター和楽

6月19日(金)18:30~20:30
六実市民センター 第1会議室(2F)

*東武野田線(東武アーバンパークライン) 六実駅 徒歩約16分

*新京成線 五香駅東口より ちばレインボーバス 六実駅行き
「六実支所」下車徒歩3分(松戸市六高台3丁目71)

*開場 / 18:00 *入場料 / 500円

*お問い合わせ / 株式会社アース・サボテン六高台 ☎047-393-8934

言葉が開いた心 言葉が救った命



船後 靖彦

命ある限り道は拓かれる

吉崎さとし ミニライブ♫



* 吉崎さとし

千葉県松戸市出身のシンガー
ソングライター。船後作詞の
歌を紹介している。

2008年に『しあわせの王様 全身麻痺のALSを生きる船後靖彦の挑戦』(小学館)を共に著した船後靖彦と、作家・寮美千子さん。二人の再会を機に、寮さんが全国で好評を博している「詩が開いた心の扉」の講演を松戸市で開催することになりました。二人のキーワードは、「言葉」「心」、そして「命」。船後に会いに、そしてきっとあなたの心の扉をたたく講演に、ぜひお越しください。

寮美千子 (りょう みちこ)

1955(昭和30)年、東京都に生まれ千葉県で育つ。コピーライターを経て、1986(昭和61)年、毎日童話新人賞を受賞し作家活動に入る。2005(平成17)年、『楽園の鳥 カルカッタ幻想曲』(講談社)で泉鏡花文学賞受賞。童話、絵本、詩、小説、ノンフィクション、舞台脚本、作詞と幅広く作品を発表するほか、先住民族の文化の研究や、地域文化・宮沢賢治・宇宙・著作権・死刑制度などに関する論文執筆や寄稿も多い。2006(平成18)年に奈良市へ移住。翌年から奈良少年刑務所において「社会性涵養プログラム」(受刑者の更生教育の一つ)の講師を務める。そこから生まれた『空が青いから白をえらんだのです 奈良少年刑務所詩集』は文庫化もされ、全国で講演も行っている。

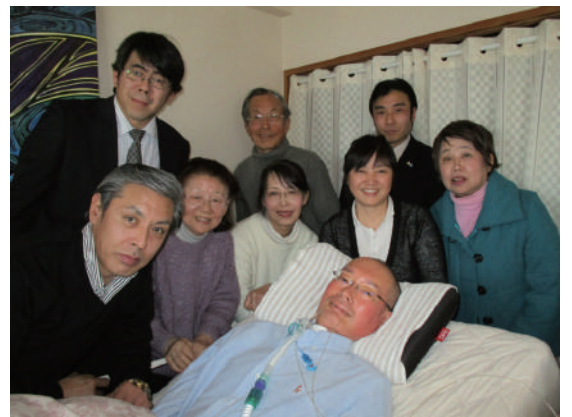
著書／小説『小惑星美術館』『ノスタルギガンテス』『星兎』『夢見る水の王国』、絵本『父は空 母は大地』『エルトウルル号の遭難』、ノンフィクション『しあわせの王様—全身麻痺のALSを生きる船後靖彦の挑戦』『マザー・テレサへの旅—ボランティアってだれのため?』、対談集『言葉の胎児たちに向けて～同調から共感へ』ほか



新潮文庫

船後 靖彦 (ふなご やすひこ)

1957(昭和32)年、岐阜県生まれ。9歳より千葉県に住む。1999(平成11)年、専門商社の営業マンだった41歳の夏、ALSを発症する。麻痺は全身に及び、2002(平成14)年、窒息感から人工呼吸器を装着。現在は、歯で噛むセンサーでPCを操作しながら詩歌や童話などの創作活動、意思伝達装置「伝の心」を用いての講演活動に取り組む。2012(平成24)年、訪問看護・介護サービスやサービス付き高齢者向け住宅を手がける株式会社アースの取締役役に就任。利用当事者としての提言や職員教育に携わっている。千葉県松戸市在住。



ふなごやすひこ後援会「チームふなGO!」は、病と闘いながら挑戦を続ける船後を支援しています。いつも笑顔がいっぱいで、自然と勇気がわいてくるチームです!

著書／『生きる力』(岩波書店、2006年)共著、『しあわせの王様』(小学館、2008年)寮美千子との共著、『三つ子になった雲』(日本地域社会研究所、2012年)、『死ぬ意味と生きる意味』(上智大学出版、2013年)共著、ほかに雑誌寄稿論文4篇

講演参加のご予約・お問い合わせ

株式会社アース・サボテン六高台：小倉(広報)

- 電話 047-393-8934 ●FAX 047-393-8935
- メール ogura@earth-saboten.co.jp



*「チームふなGO!」は仲間募集中。会費0円!お問い合わせはこちら

電話：047-702-7172 FAX：047-701-5820 メール kouenkai@earth-saboten.co.jp